

芽室町総合計画

第3回審議会議事録

日 時 平成19年11月14日（水）19時

場 所 芽室町役場地下第2・3会議室

芽室町総務部企画財政課企画財政グループ

■会議次第

1 開 会

2 会長挨拶

3 議事

(1) 事務局説明

①町民説明会の結果について

②中期財政計画（平成20年度～24年度）について

③基本構想（平成20年度～29年度）について

④実施計画（平成20年度～24年度）における重点施策について

(2) 審議

①基本構想（案）について

②実施計画（案）について

(3) その他

4 閉 会

■出席委員

堂畑忠雄、家内裕典、小山友子、武藤保宏、青木昇、西本富行

■欠席委員

荘司和子、明瀬幸子

■傍聴人 0人

■町側出席者

副町長 竹島 敏治

総務部長 岸本 昇

(事務局)

企画財政課長 手島 旭

企画財政課長補佐 松浦 智幸

企画財政グループ主査 石田 哲

同 主任 小林 徳昭

同 主任 斉藤 冬樹

第3回総合計画審議会 議事録

午後7時 開会

1 開 会 手島企画財政課長

2 会長挨拶

3 議 事

(1) 事務局説明

- ・ 町民説明会の結果説明（資料1、資料1-2）
- ・ 中期財政計画について説明（資料2）
- ・ 実施計画における重点施策について説明（資料4）

[質疑]

○家内委員

- ・ 重点施策に関して、将来像については、なぜ「みどりの中で」とし、「子ども」に特化するのか。たとえ首長が替わったとしても将来像は変わらないものであるべき。子どもに特化するのは誤解される恐れがある。マニフェストがあるから子どもなのか。
- ・ 重点施策案の「安心して生み育てることができる子育て支援」は、子育てする人が重点なのかと誤解されてしまう。
- ・ 公立病院の経営に関してだが、公立病院に療養型病床がないということを知った。公立病院は療養型をいつから放棄したのか。以前は4階にあった。3週間以上入院させないこととしたのは公立病院を黒字にするためか。点数の低い病人はよその町にいけということか。放棄したことをいつ町民に説明したか。

○副町長

- ・ 以前は老人保養センターという療養型介護があった。3週間経過したらお帰りいただくというものではない。医師が判断することはある。

○家内委員

- ・ 芽室町には療養型はないということか。

○副町長

- ・ 前田医院がなくなり、現在のところ療養型はないということになる。現実に特別養護老人ホームの入所待ちの方も多い。

○家内委員

- ・ 家族が入退院を繰り返して、りらくと公立病院を往復したが、公立病院には療養型の病床はないと言われた。それを町民は知っているか。

○武藤委員

- ・ 公立病院は治療を最優先。療養型は金がかかるので個人病院はやめてしまう。

○家内委員

- ・ 前田医院がなくなってから療養型があってもよいと思う。病院では医師が責任持って探すとは言うがなかなか見つからない。
- ・ いずれにせよ、将来像は首長が替わったとしても変わらないものであるべき。

(2) 審議

◆将来像に対する前回の審議会意見・町民説明会での意見、それらを踏まえた将来像の修正案を提示し、企画財政課長から説明。

- 課長～実施計画については、町長の考え方や進め方について意思が反映されることが自然ではないかと考える。将来像は180°変えることにはならないと思うが、諮問・答申の関係である審議会の意見は重たいと考える。審議会の総意としてまとめて頂ければ。
- 家内委員～「子どもにやさしく」を変えたら「住民にやさしく」。「みどりの中で」は「自然の中で」などではないかと思う。一審議委員としての意見。(→以後、所用のため退席)
- 小山委員～「子どもに」の部分は違和感ある。子どもを強調するのは違うところでやった方がいいと思う。
- 武藤委員～基本構想の説明文を読めば理解できる。「子どもにやさしい」を「住民にやさしい」にすると、意図がぼける。あまりにも当たり前。これまでの案は「子育て」が前面に出ていたので少しトーンを落とすのがいいのかとは思っていたが、「子ども」のフレーズを全く無くすということまでは考えていなかった。「子ども」の中に高齢者という視点が入ればよいか。
- 西本委員～人口の推移から見ても年少者は少なくなり、高齢者が増えていく。そんな中で、なぜ子どもだけに・・という意見があるのでは。もう少し言い方をひねるとかしてはどうか。
- 青木委員～例えば「子どもにやさしく生き生きと暮らせる活力に満ちた協働のまち」など。
- 武藤委員～審議会としての意思統一はきちっと図らないといけない。ただ、これまでの検討経過を考えると「子ども」を無くすという話にはならないと思う。これまでの間「子ども」が将来像に頭出しされるイメージを持ちながらやってきた。
- 小山委員～「子ども」にそこまでしなければいけないかな？という感じもある。
- 武藤委員～これから少子高齢化で、子どもが減っていくからこそ大切という感じもする。
- 堂畑会長～重点施策は事務局案でよいと思う。ただ将来像については、判断が難しい。
- 青木委員～「これから子どもを増やしていく」という姿勢であればよいと思う。そのための施策も増やしていければ。教育部会としては、基本的には、子どもが頭出しされていても不思議な感じはしていない。
- 総務部長～少子高齢化に対応し得る、そのためのものとして将来像に掲げている。親も含めて地域全体で優しく親も守り育てるということ。少子高齢社会の大きなキーポイントとして。

○武藤委員～基本構想の子どもに関する説明の中で、高齢者を大切にすることも謳ってはどうか。そのあたりに厚みを持たせては。黙っていても少子高齢化が進む、その中で子どもが大事だということの説明。

○西本委員～子どもだけでなく「子どもにもやさしい」などは。

○武藤委員～将来像は大事なのもう一度時間を取って決めてはどうか。もう1回集まってすっきりと決めたいところ。

○事務局～19日の全体検討委員会の後、審議委員の方々にそのまま残って頂き、最終答申に向けた打ち合わせを考えていた。そこをリミットとしたい。

○堂畑会長～全体検討委員会後、最後に集まり、案を持ち寄って決定することとする。19日不在となる場合は、それまでに事務局に預けること。

※実施計画については、19日の町民検討委員会において、各部会員とともに全体で確認することとした。

(3) その他

- ・19日に全体検討委員会を開催。その後引き続き審議委員による打ち合わせ。
- ・26日(10時頃)に最終審議会を開催し、答申頂く予定とした。別途御案内する。

4 閉 会